



平成 29 年 8 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ
代表者名 代表取締役社長 リム・キム・リン
(コード：9704 東証第1部)
問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹
(TEL. 03-3436-1860)

営業外収益および特別利益の計上ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成29年12月期第2四半期累計期間（平成29年1月1日～平成29年6月30日）において、営業外収益および特別利益を計上することといたしましたのでお知らせするとともに、最近の業績動向等を踏まえ、平成29年2月13日に公表した平成29年12月期の連結及び個別の第2四半期累計期間（平成29年1月1日～平成29年6月30日）および個別の通期（平成29年1月1日～平成29年12月31日）業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外収益（為替差益の増加）の計上

平成29年12月期第1四半期連結累計期間において、外貨建資産に対する為替の影響等により18百万円の為替差益を計上しておりましたが、その後の為替相場の変動等により、為替差益は23百万円に増加いたしました。

これは、平成29年12月期第2四半期末（平成29年6月末日）時点において、当社保有の外貨建資産を同日の為替相場で評価したことによる為替差益によるものであり、今後の為替相場の動向に伴ってこの額は変動いたします。

2. 特別利益（受取補償金）の計上

当社は、平成29年5月15日付「未解決となっていた改善措置に関する終了及び改善措置に係る一連の取引による特別利益の計上のお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、当時の経営陣への責任追及として、デビッド・チュウ氏より、有価証券報告書等の虚偽記載に関する課徴金137,910,000円および決算の訂正に要した費用129,467,795円に対する補償について計上いたしました。

3. 業績予想の修正について

- (1) 平成29年12月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正
(平成29年1月1日～平成29年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	3,780	100	100	300	1円09銭
今回修正予想 (B)	3,620	△20	△30	215	0円80銭
増減額 (B-A)	△160	△120	△130	△85	
増減率 (%)	△4.2	—	—	△28.3	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成28年12月期第2四半期)	3,848	78	△88	△129	△0円47銭

(2) 平成29年12月期第2四半期(累計)個別業績予想値の修正
(平成29年1月1日～平成29年6月30日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	45	80	340	1円23銭
今回修正予想 (B)	45	△2	830	3円07銭
増減額 (B-A)	—	△82	490	
増減率 (%)	—	—	144.1	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成28年12月期第2四半期)	55	△178	△88	△0円32銭

(3) 平成29年12月期通期個別業績予想値の修正
(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	90	200	470	1円70銭
今回修正予想 (B)	90	140	970	3円59銭
増減額 (B-A)	—	△60	500	
増減率 (%)	—	△30	106.4	
(ご参考) 前期実績 (平成28年12月期)	99	935	863	3円13銭

4. 業績予想の修正の理由

(1) 連結業績について

平成29年12月期第2四半期連結累計期間の売上高は、当社グループの宿泊事業部門につきましては堅調なインバウンド需要を背景に宿泊事業を推し進めましたが、ホテルの稼働率は維持したものの、宿泊単価は伸び悩み、前回予想を若干下回る見込みです。利益面においては、当社が保有・運用する外貨建ての外国証券に係る評価損が発生したほか、営業費用の抑制に努めたものの、営業利益、経常利益、親

会社株主に帰属する四半期純利益についても前回予想を下回る見込みです。

なお、通期の連結業績につきましては、下期の業績を見直した結果、概ね当初の想定通りの業績見込となったことから据え置いております。通期業績を見直す必要が生じた場合には速やかに開示する予定です。

(2) 個別業績について

平成 29 年 12 月期第 2 四半期個別累計期間の利益面においては、上記 (1) 連結業績についてにおいて記載しましたとおり、宿泊事業の予想を下回った結果、ホテル資産保有特別目的会社からの匿名組合分配益が想定より減少したため、経常利益が前回予想を下回る見込みです。一方当期純利益につきましては、当社は、平成 29 年 5 月 15 日付「未解決となっていた改善措置に関する終了及び改善措置に係る一連の取引による特別利益の計上のお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、当社自己株式の取得に伴って行いました当社子会社である霊園事業の運営会社 Supreme Team 社の株式の一部譲渡に係る譲渡益を計上したことにより、前回予想を上回る見込みです。

通期個別業績予想の修正につきましても、上記第 2 四半期個別累計期間の修正の記載の内容と同一の理由によるものです。

(注) 上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上